

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風		
所在地	京都市右京区西院西田町61		
自己評価作成日	令和5年2月22日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2690700121-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2690700121-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和5年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源豊富な町内に隣接している施設です。特に天神川の桜並木は絶景です。その並木を居室から眺められるのは最高です。穏やかな環境の中で我が家のように思って自分らしく生活していただけるような支援が出来るよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天神川ケアセンターそよ風は、株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティの傘下として2012年7月に18名定員のグループホームとして開設されました。同一敷地内にはデイサービスセンターが併設されています。立地は住宅街にあり、近隣には公園、小学校があり、日常的に散歩に出かけたり、地域のイベントにも参加するなど積極的に交流が行われています。特徴としては食事は手作りにこだわっており、利用者のリクエストに応じ、食材が偏ることなく、季節感を取り入れ、食事形態も個々に合わせて、食の楽しみを手作りで提供しています。医療との連携も取れており看取りにも力を入れています。コロナ禍において様々な制限のある中、関係が途切れないよう面会は柔軟に対応するなど工夫をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で、朝礼は行っていないが、各フロア・事務所に理念を掲げて、共有し実践に繋がっています。	利用者が書いた会社理念をフロア入り口に掲示している。コロナ前までは朝礼で唱和をしていた。グループホームの理念は、実践の中で職員間で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて今年も地域行事への参加交流は行えていません。	地域のイベント(お花見会、敬老会)への参加やデイフロアを地域に貸し出しをしている。併設のデイサービスに保育園・小学生が訪ねて来てくれる際に交流を図っている。近隣とは散歩の際にあいさつを交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて会議は中止していますが、行事報告やホームの状況を議事録にて送付しています。	地域包括支援センター、町内会長、婦人会等参加のもと、2か月に1回開催している。状況の報告や情報共有(町内会のイベントの参加案内など)を行い、活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議の議事録や事故報告書の提出の際、情報を聞いたりしています。	運営推進会議の議事録を持参し、顔が見える関係に努めている。コロナ禍で会議等への参加はできていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のユニット会議に身体拘束や虐待について話し合い意識向上に取り組んでいます。	身体拘束排除マニュアル、身体拘束等の適正化のための指針を整備している。身体拘束委員会を毎月開催している。スタッフ会議(月1回)で読み合わせをして日々の振り返りを行っている。玄関の施錠は必要に応じてロックしている。両ユニット内は行き来できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のユニット会議に身体拘束や虐待について話し合い意識向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を儲け活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に意見、要望を尋ね出来る限り運営に反映できるよう努めています。	コロナ禍は必要に応じて面会、LINEビデオ電話を実施するなど家族の意見が聞き取れる機会を設けている。毎月の書類送付時におたより(個人)と写真を添えて毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談にて意見や提案を聞く機会を設け意見を反映できるよう努めています。	スタッフ会議(月1回)、申し送りノート(見た職員は押印する)にて意見を聞くようにしている。定期面談および必要に応じて個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得などは出来る限り進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にてリモートにての研修参加を通じサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	耳を傾け本人の安心して生活できるような関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	耳を傾け家族様が安心していただくような関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている支援を見極め、出来る限りのサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしができるような関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にしながら、共に本人を支えていけるような関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ですが、人や場所との関係が途切れないような支援が出来るよう努めています。	コロナ禍ではあるが、柔軟に面会もできるようにするとともに、電話や手紙、年賀状で知人との関係が継続できるように努めている。行きつけの美容院に家族と行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり、支え合えるような支援が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、出来る限り努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望、意向を聞き家族・スタッフと相談、検討するようにしています。	入所時に家族に生い立ちなどを聞き取り、職員間で共有している。家族の協力のもと、お墓参りや友人に会いに行くことをサポートしている。入所以前の習慣も継続できるようにできるかぎり対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報やアセスメントを頂き、スタッフで共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の現状を把握してスタッフで共有出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に一度、会議で介護計画を見直しスタッフで話し合っています。状態によっては、家族様も参加されます。	アセスメント時に情報シート(利用者の生い立ち、利用者、家族の思いなど)を活用して計画に反映している。日々はIPADを活用して医師、栄養士とも情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対応して出来る限り取り組めるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように出来る限り支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尋ね、かかりつけ医との医療が受けられるように支援しています。月2回の訪問診療を受け、24時間電話対応にて適切な支援を受けていただけるようにしています。	連携する病院(みどりクリニック)から月2回の訪問診療を受けている。歯科も週1回(口腔ケア中心)、鍼灸週3回の往診がある。外来は家族が対応しその結果は家族または医師から報告があり、情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応でかかりつけ医や看護師と連絡を取り適切な受診や看護を受けられるように出来る限りの支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や相談は密に行い利用者が安心して治療できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明しますが、重度化した場合は家族・医師・看護師・スタッフと話し合いお互いの出来る事を共有し協力し合い支援に取り組めるよう努めています。	入所時に看取り介護に関する指針および重要事項説明書に基づいて本人・家族に説明を行い同意を得ている。状態変化があった場合など必要に応じて話し合いを行い、看取りになった場合は医師より説明を行い同意を得ている。職員の研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・訓練にて実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて身につけるように努めています。	夜間想定含め年2回の避難訓練を実施している。コロナ前は消防署立ち合いのもと、地域との合同訓練を行った。福祉避難所にはなっていないが町内住民には有事に活用してもらおう旨話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーに関する研修を行いスタッフ間で話し合い、一人ひとりの人格を尊重した対応が出来るよう努めています。	プライバシーを含め接遇研修を定期的の実施している。排泄、入浴介助では原則同性介助で、羞恥心、自尊心に配慮している。居室に入る際は、必ずノックするなど日常的にプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や様子から思いや希望を表現できるような声掛けを行い自己決定が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るよう希望を尋ね出来る限りの支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りの支援に努めます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを尋ねたり、季節の食材を使ったり、一緒にできることを楽しみながら出来るよう支援しています。	年に2～3回、嗜好調査を行い意向をくみ取り、手作りの料理を提供している。テーブル拭きや食器拭きなどできる範囲で手伝ってもらっている。きざみ、とろみ、ミキサー食にも対応している。家族との外食や出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った摂取が出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを行い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を見ながら声掛け行い出来る限り自立に向けた支援に努めています。	排泄記録をもとに利用者個々の排泄パターンを把握し声掛け、誘導等を行っている。リハビリパンツを使用している。夜間はポータブル使用の方もいる。自力でトイレに行ける方も必ず見守り、必要な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関の協力・食事・水分・運動などの工夫にて取り組み支援に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっていますが、ゆっくり入浴が出来るように支援に努めています。	原則、週2回午前中の中の入浴となっている。ゆっくり入りたい場合は順番を最後にするなど対応している。拒否される方は無理強いせず時間を変えたり言葉かけを工夫している。ゆず湯、バラ湯など楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じた休息や安眠が出来るよう支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の理解をし、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り一人ひとりに合った支援が出来るよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は出来ませんが、家族様と外出される事が増えました。	日常的に近隣の散歩に出かけている。近くの川の土手の桜で例年お花見をしている。また、家族が本人から直接希望を聞いたり職員が聞いて伝える等して家族の協力の元外出している。デイサービスでドライブに行く際には声をかけてもらい便乗している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて出来る限りの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様との電話や大切な方との手紙のやり取りが出来るよう支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや室内の温度・湿度調整などで居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	共用のサービスフロアは広々として落ち着いた色合いの壁や柔らかな間接照明で利用者がゆったり落ち着いて過ごせる居場所となっている。壁には、職員と利用者が一緒に作った季節を感じられる作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やテーブルで思い思いに過ごせるような工夫を出来る限り行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾りを持ってきていただき居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	広々とした居室は、窓が大きくとられ自然光が入って柔らかな明るさを保っている。家族の協力を得て自宅で使い慣れた家具や思い出のある品々の他家族の写真等も飾って、落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で一人ひとりが自立した生活が出来るよう工夫し支援しています。		